

▶ 実用価値格段に高まった ◀

## 大阪府建築家協同組合の出版物ご案内

### 建築工事共通仕様書

《1975年度版改訂版》

監修 日本建築家協会

B5判 上質紙 174頁  
頒価1200円 送料1冊200円(2冊以上実費)

〔内容〕 表を主体とした見やすさと、毎年改訂による確実豊富な内容。(材・工ガイドつき)

〔目次〕 総則/仮設工事/土工事/地業工事/コンクリート工事/鉄筋工事/鉄骨工事/ブロックおよび煉瓦工事/防水工事/石工事/タイル工事/木工事/屋根工事/金属工事/左官工事/金属建具工事/木製建具工事/ガラスおよびプラスチック工事/塗装工事/内装工事/その他工事

### 建築設備工事共通仕様書

《1975年度版改訂版》

監修 日本建築家協会

B5判 上質紙 207頁  
頒価1200円 送料1冊200円(2冊以上実費)

〔内容〕 建築設備工事の仕様書は内容を今般全面的に大改訂しました。業界待望の良書。(設備材・工ガイドつき)

〔目次〕 総則/電気設備工事/衛生設備工事/空調設備工事/輸送設備工事

### 現場ノート

《改訂第6版》

監修 日本建築家協会

建築編 B5判 67頁  
ノート 79頁  
設備編 B5判 69頁  
ノート 78頁

頒価各500円送料1冊160円(2冊以上実費)

〔内容〕 建築と設備を別冊としました。工事のチェックおよび注意と、併せて工事の記録にもなる形式のもので、本文は工種別にチェックポイントを左頁に配し、右頁は横ケイ紙として、ここへ自由に書き込めるものとししました。要は現場に携わるみなさんの仕事の整理に役立ち、竣工後の記録にもなるという点を考慮したものです。

### 協同組合制定用紙

構造計算用紙 トレーシング 各 100枚綴 800円  
(5ミリ方眼) 和紙 各 100枚綴 600円

積算用紙 No.11. 101~104 各 50枚綴 各 200円  
No.12~16 各 100枚綴 各 350円  
No.105~109.201

柱梁応力表 トレーシング 各 100枚綴 各 700円

梁 (2A=横) 柱 (3A=横)  
(2B=縦) (3B=縦)

▶ ご注文は本組合へ直接または日本建築家協会本部、東海支部、九州支部、東京、大阪府、京都府、和歌山県、高知県建築士会へ  
▶ ご希望により仕様書および現場ノートには50冊以上に限り、事務所名も刷り込みます。(実費)



発行所 大阪府建築家協同組合

理事長 石原季夫

大阪市東区上町5番地(建設保証ビル)

TEL (06) 768-2861 代表 千540

振替 大阪26806

## 特集 環境問題

### 一主として相隣関係としての環境

日照、プライバシー阻害、電波障害、局地風、騒音公害等、あらたな建築活動がもたらすさまざまな影響に対して、周辺住民からの苦情が多くなっている。一方、建主側にとっては必要な採算を割ってまで、私的権利を清算されるのは不当であるとされる意見もある。これらの問題は、今日、公的な計画から私的な建設まで、およそ建設活動といわれるものがすべて突き当たっている問題であり、建設者はその間に立つてあらゆる矛盾をおしつけられている感が強い。今回の特集では、まず本号でそれぞれ立場のちがう方々の腹藏ない意見を述べてもらい、10月号でそれらの意見に対する意見も含めて問題が那邊にあるかを探ろうとするものである。

・問題の提起……………後藤 滋

・各立場からの意見

住民……………柏木 暁

中央官庁……………和田 友一

地方自治体……………田村 明

ディベロッパー……………佐藤 正和

設計事務所……………樹谷 博行

建設業……………阿部野 誠

### 問題の提起

横浜国大教授

後藤 滋

1960年代後半からの開発のテンポとそれに伴う環境破壊は目に余るものであり、公害・環境問題は著しく顕在化してきた。70年代に入って、文明汚染と環境破壊がキャンペーンされ、広く一般市民の意識をも変革してきたが、その後の高度成長政策の持続、金融緩和による大量の乱開発による自然破壊は全く目をおおいたくなる状況であった。これを単に資本の論理、利潤追求によるたれ流し文明と断定することは容易であるが、日本の風土の過去から現在をみると、それだけではない複雑なものがあるように思われる。私は環境工学を専攻としてきたので、広く社会科学的な考察は素人といつてもよいが、研究対象を環境においているので、環境問題に関しては常に強い関心を持っていたつもりである。以下に私見を簡単に述べてみたい。

生活基盤軽視の行財政 日本の都市の環境整備、なかでも生活環境を公衆衛生的見地から改善整備しようとする気運は西欧諸都市に比べて100年の遅れがみられる。かの文豪たる森田太郎(鷗外)が明治初期にヨーロッパに留学し帰国してから、住居衛生とくに環境衛生としての下水道の効用について論じられたにもかかわらず、わが国では公衆衛生思想の普及は遂にみられなかった。それは、産業革命後の都市人口集中と労働者階級的生活環境

の悲惨さの現われ方の相違にもよろうが、19世紀後半におけるヨーロッパ諸都市の都市的施設が大規模に建設されているのを知りつつも、当時の東京府知事は「都市計画案」において、「道路・橋梁・河川は本なり、水道・家屋・下水は末なり」として、市民の衛生・生活環境軽視の思想が始まった。これは正に産業基盤整備に重点をおき、生活基盤整備を無視した思想で、その後の一環した富国強兵政策と相まって、つねに産業および軍用優先となり、たとえば下水道工事計画等は度重なる戦争による財政難によって中断され、今日に及んでしまった。後進国としてのわが国の都市施設の立ち遅れには、他にも幾つかの原因があったようである。たとえば尿尿処理にみられる昭和20年代末までの都市と農村との関係の未分化、医学の衛生学から個人防衛の予防疫学(細菌学)への移行等の影響などである。

爆発した住民 それにしても、先の生活基盤軽視の行財政は今日ほとんど変わっていないといえよう。道路、港湾、河川の行政は全く国政に支配され、生活環境を無視されている。また高度経済成長政策における地域開発は巨大化し、その開発の主体は大企業と中央行政庁であり、これと結びついた地方自治体であった。ここには、地域住民の参加や、地域問題に対する学習は全然考慮されず、全くの反民主主義の主体による開発である。その結果、そこで生み出された利潤あるいは租税収入は中央集権的に再配分され、地域への還元はなされず、地域開発は全くその地域住民には無関係なものとなるのみならず、公害被害ならびにその後始末に対する地方財政負担のみがマイナス要因として残されたのである。そして一層の中央集権化は一層の大都市化を招き、いたるところで都市問題を引き起こした。そうした背景のもとで住宅不足、地価高騰を招き、都市の過密、高密度化は相隣





奈良に来て青芝の上に寝ころびて鹿にもの言う(吉井勇)  
 その通りである。月曜日奈良公園はゴミの山、くわえタ  
 バコ、立小便、人間にとっても生活環境は悪い。昨年6  
 月頃より奈良公園の鹿にフラフラ病がはやった。日曜日  
 ごとに訪ずれる10万人が芝を踏み、鹿の食べる青芝がな  
 くなったのである。今、奈良春日奥山に人間が健康自然

話し合いを重ねた。父兄代表は弁護士、判事、建築士、  
 日本語が片コトの牧師さんの4名であった。これには私  
 もごむりごもつとも、高さをカットするやらセットバッ  
 クするやら、大々的な設計変更で工期は延びるし、物価  
 は上がるし、悪戦苦闘の設計であった。(参考 日照図は  
 コンピューターで作成し、毎時間プロット色紙で分けをして、

発注者の意向にしたがって法律の定める基準値を下  
 を施工することは至極当然である。環境阻害が予見され  
 るならば発注者との折衝が当然であって、依頼された業  
 者に対する業務妨害は甚だ迷惑である。

**都市再開発は 高層住宅の利点を生かして** 言うまでも  
 なく建設業は営利企業であって受注した工事を法律に準

なく、そこに関係住民の100%同意取り付くなど到底不  
 可能であろう。建設業界が主張する基準値の設定は、あ  
 らゆる条件を総合勘案した純粋なもの、客観的であ  
 ればあるほど業界の基本的考え方と合致するものと確信  
 している。

**各立場で 冷静な判断を** 経済成長にインフレと公害は  
 つきものである。勿論ないことが望ましいのだが、たと